

作品制作の一過程

歳 森 芳 樹

TOSHIMORI Yoshiki

作品制作にあたり詩文の選択は、大切な課題といえます。漢字と

かなの混ざった調和体作品においては、その比率が大切です。概して漢字の多い詩文は力強い印象となり、逆の場合は優しいそれとなります。また文字数や紙面構成もそれに加わります。何を優先するかは、その時により変わります。詩文の意味が気に入ったものでも作品としては映えない場合もあります。したがって作品としてよりよいものとなるのが、詩文選択の条件の一つとなります。

本作は横作品を想定して詩文選択にあたりました。先の条件を組み合わせ、漢字の表現を見せる作に方向を定めました。それを効果的に見せるため文字数に制限のある俳句を選択し、草稿のうち漢字とかなをバランスよく配置できるものに決定しました。作品サイズは、一行の文字数を少なくして漢字の字幅を広く出すため半切に決定しました。一文字のごとの線の太細と墨の潤濁を強調したものを表現の主と定めました。墨色は行間の白が生きる濃度を模索しこの濃さに落ち着きました。また運筆に遅速と筆圧の変化を大胆につけた線を視線のポイントとして配しました。落款は本文の表現を生か

す抑えたものとなりました。

さて仕上がった作品は、構想に叶ったものになっているか。一本の線でも何か残るものが出せた作となったか。制作過程を文字に起こし、自身の拙なるを自覚し、これからも日々励んでいくことの大事を痛感しました。

用具用材 筆 兼毫筆

紙 南華箋

墨 和墨



34.7×135cm

辻堂に狐の寐たる霜夜かな